

業務データ知識管理システム(JD KMS)

田中千代治 松葉 久知 神田 達矢 生方 行一
 大阪工業大学 情報科学部 大阪工業大学大学院 情報科学研究科 三菱電機情報ネットワーク株式会社

1. はじめに

情報企業における資産には建物・コンピュータや通信機器などのハードウェア資産と顧客・技術・製品情報などの知識資産およびこれらを取扱う人的資産があるが、これらの中で最も重要なものは知識を生み出す人的資産であろう。

人的資産管理のために企業では各個人が持つ技術情報の蓄積・利用、裁量労働制に伴う社員の業績管理が普及しており、今後ますます人的資源の適正配置・考課、蓄積された知識の有効利用、企業理念・方針の周知・徹底が情報企業の存続・発展を左右することとなる。

このような観点より、我々は社員が各年度に記載し、これを上長が面接・評価する「業務管理シート」をベースとした「業務データ知識管理システム JD-KMS : a Job Data Knowledge Management System」を開発した。以下に本システムの方式と機能、操作の概要について述べる。

2. 業務管理シート

図1に本システムで使用する「業務管理シート」の形式を示す。は所属、氏名など、は所属する組織の目標、は上長方針(Read Only)、は自己の業績目標と達成基準、は上長の評価とコメント欄である。



各社員は期首初めに、Web上で自己の「管理シート」を呼出し、上長の方針に対応する組織の目標と自己の業績目標などを記入する。上長は部下に対する方針を他画面に記入すると共に部下のシートを参照し

て面談し、必要なコメントを記入する。また期末には部下の業績を評価し、達成度他を記入する。

3. システムの構成と機能

図2に本システムの構成を示す。

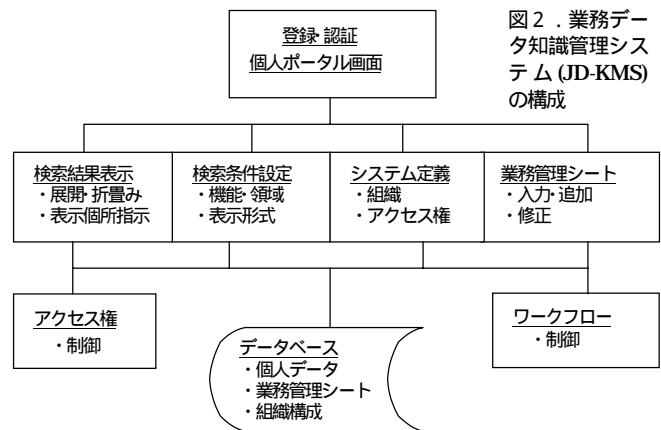


図2. 業務データ知識管理システム (JD-KMS) の構成

このシステムの操作と機能は次の通りである。

1) 社員がWeb上で認証を受けると、自己のポータル画面が表示される(図3参照)。このポータル画面は社員の役職によって異なりこの例は部下を持つ例である。

杉原さんの選択メニューです。

- 業務シート入力 自分の業務シートを入力することができます。
- 検索 業務シートの検索が行えます
- 個人情報入力 自分の情報を入力できます。
- 部下評価 自分の部下の評価をします。
- 方針入力 方針を入力します。
- ログアウト このシステムを終了します

図3. 各社員のポータル画面

2) 社員がポータル画面の「業務シート入力」を選択すると、図1の業務管理シートが表示され、記入可能な白枠の部分に自己の目標等を書く。記入内容は期首、期中、期末で異なり、シートの各セルには時期、役職により Read/Write のアクセス権が設定されている。

3) 社員がこのシートを登録するとワークフロー制御により上長に通知され、上長は図3の「部下評価」より部下のシートを表示し、コメントや評価を記入する。

a Job Data Knowledge Management System (JD-KMS)

Chiyoji Tanaka Hisatomo Matsuba Osaka Institute of Technology Faculty of Information Science
 ctanaka@is.oit.ac.jp 1-79-1 Kitayama Hirakata City Osaka, Japan Post 537-0196
 Tatsuya Kanda Osaka Institute of Technology Graduate School of Information Science and Technology
 Kouichi Ubukata Mitsubishi Electric Information Network Corporation

4) 他に各種の検索機能があり、組織や各員の業務目標の検索や上の方針がどこまで末端に浸透しているかなどを表示する機能がある。

一般に大量に蓄えられた情報を検索するためには、検索範囲、検索条件、検索結果の表示形式の指定が必要である。この検索範囲は組織の役職により異なり、原則的には自分より以下の部下の検索表示のみを可能としている(人事部門は例外扱い)。この検索条件には、(1)個人検索、(2)組織検索、(3)業務検索(キーワード検索)、(4)達成度比較検索(検索範囲内での達成度でソート)、(5)昨年度比較(昨年度シートと比較表示)、(6)組織目標一致検索(上の方針が末端まで浸透しているかを表示)などがある。この検索結果表示には、(1)リスト表示(組織内業績目標を人のIDでソート)、(2)構造化表示(組織を階層化して再帰的に表示)、(3)グラフィカル表示(組織を2次元に階層化して再帰的に表示:行が下位で列が上位階層)がある。

組織検索の例として、ある組織の構造化表示を図4に、グラフィカル表示を図5に示す。

組織検索 - 構造化表示 -

検索ヒット数: 40件

アットソーシング統括部 (40)

IDC管理部 (8)
 関西システム部 (15)
 IDC第一部 (4)

図 4-1. 組織の構造化表示 統括部センタを開き、部を折り畳んだ表示

組織検索 - 構造化表示 -

検索ヒット数: 40件

アットソーシング統括部 (40)

IDC管理部 (8)
 IDC第一部 (4)

図 4-2. 組織の構造化表示 図 4-1 の部を展開した表示

マンナバ	氏名	今期の業務目標 1	今期の業務目標 2	今期の業務目標 3
50003	藤吉 顕子	センタ業務標準化作業	関西顧客情報収集	関東顧客情報収集

運営管理課 (3)

マンナバ	氏名	今期の業務目標 1	今期の業務目標 2	今期の業務目標 3
90113	池田 祐加子	取りまとめとしての役割は完了。	セキュリティ関連機器の技術管理。	
91174	岡林 武士	ホスト運営の効率化・合理化	ホストアウトソーシングの本番運営	システムの安定稼働と品質向上
98107	坂上 祐樹	管理DBの整備	運用業務の定式化	情報の整理、共有化

関西管理課 (2)

マンナバ	氏名	今期の業務目標 1	今期の業務目標 2	今期の業務目標 3
21810	佐久間 浩	情報システムアウトソーシング事業の完遂	情報システムアウトソーシング事業の完遂	情報システムアウトソーシング委託会社の新規開拓
50004	佐藤 武	テストデータ	テストデータ	テストデータ

組織検索 - グラフィカル表示 -

検索ヒット数: 40件

グラフィカル表示

列は部を行は課を示し、セルの値は所属する課の人数、右の表は所属する人の氏名を表す。マンナバを押すとその人のシートを表示する

部	第一IDC課	第二IDC課	管理課
IDC管理部	1	3	2
関西システム部	3	6	4
IDC第一部	1	3	
IDC第二部	2	4	2

図 5-1. 組織のグラフィカル表示(折畳んだ表示)

マンナバ	氏名
90148	稲増 一郎
90178	奥山 太郎
92130	阪本 大輔
92141	藤岡 達矢
93111	神田 透悟
95102	杉本 徹
96107	高島 晋

図 5-2. 組織のグラフィカル表示(展開した表示)

図6に組織目標一致検索の例を示す。本機能は、部下を持つ管理者の場合、その管理者はシートに既に記載されている上の方針(図1の)と関係づけて自己の組織の組織目標(図1の 最大5項目)を書く共に自己の目標に関連づけた部下に対する方針(別画面 最大8項目)を書く。このように上の方針を自己の組織目標に、および自己の組織目標を部下に対する方針に関係づけることにより、上長から部下へ再帰的に上の方針を辿ることができ、上の方針がどのように下位の組織に浸透しているかを把握することができる。従って、最上階層の社長は組織目標を持たず、また、末端階層の担当者は方針を持たない。

組織目標一致検索 - 方針表示 -

後者トップへ | 標準 | 拡大 | 縮小

階層1 A氏 方針

階層2 B氏 目的1

階層2 B氏 目的2

階層2 B氏 方針1

階層3 C氏 目的1

階層3 C氏 方針1

階層4 D氏 目標1

階層4 D氏 方針1

階層5 E氏 目標1

階層5 E氏 目標2

図 6. 組織目標一致検索

図6において、最上位階層はA氏の方針で、この方針に対して部下のB氏には2つの目標がある。B氏の目標2に対してB氏の方針1があり、この方針を受けてC氏は目標1と方針1を設定している(B氏の目標1に対しては展開表示されていない)。C氏の方針を受けてD氏が目標1と方針1を設定し、この方針に対してE氏が2つの目標を定めている。

4. おわりに

現在、本システムは基本部分の開発を終了して評価の段階にあり、組織目標一致検索や構造化表示で好評を得ている。しかし、組織変更や兼務者・出向者の取扱い、年度毎の業績履歴管理などの課題が残っており、これらを開発して実用化し、更なる意思決定の迅速化、人材の適正評価・配置を推進する計画である。

最後に本開発を勢力的に実施した当研究室4年生の矢瀬正行氏、藤森直由氏に謝意を表する。

参考文献
 特集:「ナレッジマネジメントとその支援技術」人工知能学会誌 Vol.16 No.1 2001/1 pp2-73
 山崎秀夫:未来型組織を支える「企業ナレッジポータル」野村総合研究所 2002